

V

外部評価委員と草津市教育委員の懇談

◆ (外部評価委員より) 外部評価を行っての感想

◇草津市は教育予算が充実しており、先進的な取組もされていて、細部まで工夫がされている。

◇市民にとって非常に配慮された取組がなされていることが認められる。

◇教育に多くの予算をつけておられ、さまざまな事業を展開していることにいたく感心した。

◇各種検定事業や人員の配置などに取り組み、確かな学力の育成、教育の充実に力を入れておられる様子にもものすごく感心した。

◇施設面をはじめ、草津市の教育は子どもたちにとってとても充実したものだと感じる。

◇先生方が毎日遅くまで残って真摯に教育に取り組まれている姿を見ているので、今回外部評価委員をして、教育委員会がさらにこんな風に活動しているのだということを知り、改めてありがたく思った。この調子で続けていただきたい。

◆ (教育委員より) 外部評価委員会の会議録を読んだ感想

◇事業を進めるうえで量的な拡大と質的な進化の二面があり、今後は質的評価が問われるようになるという兒玉委員長の意見はもっともであり、今後は質の追及とともにその評価を行っていききたい。

◇課題・必要性については毎年繰り返さず、具体的な施策や事業の形にして反映、対応し、結果を点検評価報告書に記載して記録として残すこと。

◇事務局、教育委員ともに協議、協働に努め、意思疎通、情報交換を密にしてこれまで以上に信頼される機関になれるよう努めたい。

◇保護者代表である山下委員から身に余るお言葉をいただき感激している。三木教育長から、機会をとらえて、山下委員のこの言葉を事務局や学校、その他の教育施設に伝えていただいて、現場を守る人たちの励みにしてもらったらと思う。

◇評価とは最終的に草津の子どもたちに生きて働くものでなくてはいけない。そのた

めには、子どもたちを育てるに当たって、現場の先生方、事務局の苦勞を共有する必要がある。

◇ハード、人員の充実も教育そのものに活かしてこそ、その目的が果たせる。ハードや人員は教育のための手段であるので、それらによって子どもたちに成果が出たかを評価していかなければ意味がない。

◇ハードや人員に頼らない、考える授業を大切にしていきたい。また、草津でしかできない、地元ならではの取組というものを強化していきたい。

◇幾つかのところで過大な評価をいただいたことについては励ましとして捉え、教育現場の教員、行政職員が今後ともこれを誇りにして、確信として取り組んでいかなければならない。

#### ◆教育委員会事務の点検・評価の今後について

◇毎年評価が続くと、評価疲れのようなものが出てしまう。教育振興基本計画の第2期には、拡大した事業をどうやって維持していくのか、その事業をどうやって整理・統合していくのかという事業の見直しも必要になってくる。また、評価疲れを起こさない工夫も必要である。

◇評価のための評価では意味がなく、子どもたちのため、市民のために内容を詰めていくことが大切である。

◇「開かれた行動する教育委員会」としては、説明責任を果たし、できるだけ多くの方の理解を得て、全体的な合意をとって施策の方向を定めることが求められると思う。

◇評価報告書を作成して終わりではなく、その評価が活かされるように、課題についての対応策をとり、その結果を翌年の報告書に記していずれ課題解決のゴールを見つけることが必要である。

◇評価の項目を細かに設定しているが、その項目に表れないその年の課題は、次の年に評価の項目として表れなければいけない。ずっと同じものでは形骸化するので、スキ間を知って、次に力をつけていくことが一番大事である。

◇教育振興基本計画は10年スパンで作成されているが、求められるもの、課題が変

化している中でどのようにバージョンアップしていくかというのが難しい。計画を立てた時点で想定していなかった内容で成果を上げた事業がこの評価の中に出てこないこともある。議論をして項目を見直し、今日的なテーマに合わせなければ意味がない。

◇10年で事態はどんどん変わっていく中、前の10年につくった基本計画をそのままの枠組で持っていくことはできないので、どこかで見直し、項目の追加などをしていかなければいけない。

◇現状に合わせ、計画の途中で変更をしていくためには、基本計画そのものを大きくくりの計画にしておき、それぞれの年度で年度計画を見直し、実践していく方法がある。新しく起こってくる問題はその都度年度計画の中で反映させ、この評価報告書にも反映させれば良い。

#### ◆地域協働合校に関して

◇地域活動は、地域コミュニティと学校教育、社会教育の分野で取り組んでいるが、三分野を融合させる努力が必要である。まちづくり協議会が今後は総括して一体になるように取り組んでいけば非常に良くなるのではないかと思う。

◇PTAの立場は、学校と地域の間立っているところがある。両者をPTAが上手く取り持って、学校と地域を一体化させる役割を担っていきたい。

◇まちづくりや学校行事に関わっていただいている地域の方は一定の方に偏っているのではという思いがある。特定の人負担にならないように、できるだけ多くの方に関わってもらうことが課題だと思う。

◇後継者を養成し、新旧交代を続けることが組織を維持、または広げるために必要である。地域協働合校のような活動をする時の難しさは、自分たちの後を引き継ぐ人が少なくなっていったときに、組織のあり方が非常に負担になるということにあると思う。

◇学校、個々の教員が地域の方、地域の行事をオープンな気持ちで受けとめることが地域協働合校の要になる。

◇地域協働合校がだんだんスケジュール化、行事化していくと、初めにあった理念が少しずつ薄れ、負担になっていく。昔と同じ形で続けるのではなく、それぞれの地域

にあった形で協働合校の理念を活かすことが大切であるので、整理していく必要がある。

#### ◆幼小中の交流に関して

◇学校の先生方は、その世界しかない部分があると思う。いろんな意見を聞きながら先生自体がスキルアップしていけるように、小中学校間の交流や研修会があれば良い。

◇小中学校のシステムの違いはそれぞれの発達段階に応じた効果的なシステムとして尊重しなければならないが、お互いの良さを取り入れるなど交流をしていかないとその隙間はなかなか埋まらない。

◇新しい課題が出た時にどれだけ整理できるかが問題である。幼小中の課題、子どもの置かれていた環境を共有し、全体で取り組むことが求められる。

◇発達障害をもつ子などの場合、その情報を学校内で閉じてしまうことは、その子が進学する際の学習や対人関係上では大きな問題になってしまうので、その点の情報の交換も考えていただきたい。

#### ◆いじめ問題に関して

◇2学期に入ってから市内全校で「いじめをなくそう」校長宣言をされた。教室でも子どもに説明し、保護者あてのリーフレットも作成いただいた。大きな問題が起これば先々に動いておられることから、手厚くしていただいていると感心し、一保護者として安心して子どもを学校に通わせられる。

◇学校、家庭でいじめの問題を話せる環境づくりに努め、また、問題行動に対しても、学校だけでなくカウンセラーの先生も含めて個々の子どもに合った指導・対応ができるように整備している。いじめはこの学校でも起きる、いつどこで何が起こるかわからないので、起きた場合にはいじめられている子どもたちを守り通すという視点で具体施策を打っていききたい。

#### ◆今後の草津市の教育について

◇教育予算は削ろうと思えば簡単に削れるが、予算を削った時の不利益は子どもたち

にいき、予算を削り続けると質の高い教育が提供できず教育の疲弊に繋がる。どうやって子ども成長させていくかという長い目を持って、必要な教育予算を確保いただきたい。

◇草津が教育予算に潤沢なのは、市長の教育に対する理解が高いことが大きい。教育委員会と行政の長が対立すると不幸になるのは子どもなので、話し合いの場をしっかりと持って、意見を出し合って理解し合うことが大切である。

◇今般、教育委員会、教育委員のあり方についてずいぶん議論されている。何か大きな事案を抱えたときに、教育委員の責任はという批判がクローズアップされるが、この批判に応えられる術を探すべきであり、教育委員会という有様を見直すことが必要だと考える。そのためには、教育委員と事務局が一体になって取り組む姿勢で臨んでいきたい。

◇現場ではまだまだ保護者と教育委員会が遠い関係であり、今回評価いただいた内容、事業についても保護者の側に伝えきれていない部分も多い。保護者代表の教育委員として、この距離を縮められるように努めたい。

◇「開かれた行動する教育委員会」をモットーに、教育委員と事務局、市長部局と教育委員会、教育の現場と教育委員会が手を取り合って、「子どもが輝く教育のまち 出合いと学びのまち くさつ」の基本理念に向けて頑張っていかなければならない。